

発行  
四国三十六不動靈場会  
「かんまん」編集委員会

メール  
[sikoku36fudo@gmail.com](mailto:sikoku36fudo@gmail.com)

ホームページ  
<http://sikoku36fudo.org/>

かくまい

題字：三宅 佳林

# 四國三十六不動靈場広報誌

- 目次
- 1 P 行事案内・新会長挨拶
- 2 P 火祭り・役員改選報告
- 3 P・4 P 新札所挨拶・寺院紹介  
・コラム・新任先達紹介

# 六波羅蜜修行推進先達講習会

日時 令和三年五月中下旬  
場所 あわの抄・福性寺

**本山寺奉告法要**  
日時 令和三年四月十七日(一)  
場所 第二十九番 本山寺  
(香川県三豊市豊中町本山甲一四四五)  
**※百名限定(要事前申込)**

日時 令和三年三月三日（水）  
場所 第十一番 童学寺  
担当 第十一番 童学寺

**新先達研修会・昇補補任式**  
日時 十二月七日（月）  
場所 ホテルグランフオーレ  
(四国中央市三島朝日一丁目一-三〇)  
**※対象者のみ**

## 行事案内

## 新会長挨拶

靈場会、会長職として先達様と共に四国三十六不動靈場の発展に尽くす所存でございますので、皆様のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

不動勤行次第は一般的には使用しておりますが本来僧侶・修験者の方々が用途に応じて読経致します。



安易な心でお唱えをする事なく  
心を込めてお唱えする事が大事  
になつてきます。

お不動さま、お大師さまなど  
のご利益が頂けますがその反面、  
仏様からのお叱りがある事を念  
頭にお参りなさつて下さい。

先達様が多くの皆様を導きお  
参りする時、初めての方々には  
四国八十八ヶ所、別格二十靈場  
等のお参りの仕方から始め徐々  
に不動靈場のお参りの仕方へと  
段階を置きお伝えするのも一つ  
として無理のない参拝を致しま  
しょう。

新型コロナウイルス、インフ  
ルエンザ等に気をつけお参りの  
際元気なお姿をお見せください  
ます事、靈場一同願つております。

第06号

四国三十六不動靈場が他の靈場と異なる点は、各寺を「六波羅蜜修行道場」と定め、参拝の方々がお参りを通じて精神の向上を目指すという明確な目的を備えているところだと思います。先日、参拝の方に気づかせていただいたことがあります。朝の諸堂巡拝をしていました時のことです。一人の優しそうな参拝者の方と出会いました。おはようございます。おはようございます。笑顔で気持ちのよい挨拶をしてくださったその方は、お参りさせていただいてありがとうございます。と言ってお不動様の御堂の方へ進んで行かれました。熱心にお勤めをされた後、その方はリュックから袋を取り出しておもむろに周囲のゴミやお線香の屑を拾い始められました。蠅燭立てに付いた溶け残りや線香立ての中まで綺麗にしてくださいっておりました。感謝をお伝えすると、その方は、こちらこそさせ

ていただいて有難うござります。と答えられました。

布施とは何も金銭や物に限ったことではありません。会った人全てを朗らかに優しい気持ちにさせる笑顔、これは素晴らしい布施の行為です。持戒と忍辱と精進の心は、暑い日差しの中、一言も泣き言を言わず一心に感謝でゴミを捨う姿に見て取れます。そして禅定と智慧、これは後にその方と少しお話しをさせていただいて気づかされました。どうしてそんなに周りの事に気がつき観えておられるのですかとお聞きするとその方は、今自分に何ができるのかを常に考えております。と答えられました。お参りをさせていただけることにも感謝です。全てに感謝です。と言わされたその方の御顔は本当に仏様のような優しい御顔でした。

私はその時、今自分が何か周りにでかける事が無いかと自問する事が禅定、全ての事に感謝ができる気持ちこそが仮様の智慧ということなのだと気づかされました。

その後、納経所へ来られても、その

# 新任先達紹介

お書きください

skokubudo@gmail.com  
「かんまん編集委員会」

胸飾玉・念珠玉の親玉（不動玉）授与所は、令和2年10月より下記札所に変更となっておりますのでご注意ください。

**第23番 極楽寺（靈場会事務局）**  
TEL 0897-59-0011  
先達関係のお問い合わせ（補任・住所変更など）は下記までお願いします。

**第2番 明王院（靈場会先達事務）**

新事務局

## 編集後記

# 不動の火祭り

令和二年二月二十九日(土)に会場第三十一番札所 海岸寺(香川県仲多度郡多度津町西白方九九七)で担当寺院、第二十六番仙龍寺・第二十七番常福寺にて行いました。

この度は、新型コロナウイルスの影響により初めての無観客での実施となりました。本来はたくさんの方々に参拝していたが、だく予定でございましたが、このような形になり大変残念でございます。新型コロナウイルスの収束を心からお祈り申し上げ、さらに皆様の健康を祈念しての法要を寺院・行者・実行委員会所属の先達のみで行わさせていたただきました。

ご協力いただきました皆様、有り難うございました。



柴燈護摩の様子



大師堂前での読経

## 役員改選案内



常福寺住職の挨拶

### 四国三十六不動霊場役員

(令和二年十月～令和五年年九月末)

顧問	第七番	福性寺
会長	第二十二番	興隆寺
不動信仰 推進委員長	第三十六番	聖代寺
専務総務担当	第六番	不動院
事務局	第二十三番	極楽寺
会計	第二十六番	仙龍寺
先達事務	第二番	明王院
先達会 会長	愛媛県	松本 剛



祈祷の様子

## 寺院紹介

### 第二十九番札所 本山寺

大同二年(八〇七)弘法大師の開基。大師が恵果阿闍梨より授かった

七宝を、この峰に納められた後、平城天皇の勅願所となり鎮護国家の為

の開創であると伝わる。本堂は、鎌倉期建立であり、国宝に指定される。

御本尊さまは、馬頭観音。脇侍は、薬師如来と阿弥陀如来を祀る。この

三尊は、いずれも弘法大師「一刀三禮」の御作である。馬頭観音は現世、薬

師如来は前世、阿弥陀如来は来世を御救いくださる。脇侍の阿弥陀如来

は「太刀受けの弥陀」の別名が伝わる。天正の兵火では、長宗我部軍が、

本山寺に押し入った時、当時の住職は我が身を捧げて立ちはだかつた。

しかし、軍勢は、住職を切り捨て本堂へと歩を進めた。すると、本堂内

が現れ、その右手から血が流れ落ちていた。この姿に恐れおののいた軍

勢は、本山寺を焼かず去つていった。

年間行事		
新年護摩祈祷法会	一月一日～三日	野山本山布教師巡回
一月十三時	十月下旬	
ひな祭り	ひだまり市(手作りの品物が境内に)	
三月三日	五十店舗ほど建ち並ぶ)	
春季五重塔見学会	十月最終日曜日	
五月連休中	秋季五重塔見学会	
はなまつり 誕生会	十月～十一月中の連休中	
春季五重塔見学会	大晦日除夜の鐘	
五月連休中	十二月三十一日	
はなまつり 誕生会	〇時頃より	
春季五重塔見学会	月並護摩祈祷会	
五月連休中	毎月二十八日	
はなまつり 誕生会	九時～	
春季五重塔見学会	八月二十三日	
五月連休中	六時から正午	
はなまつり 誕生会	きゅうり加持	
春季五重塔見学会	土用丑の日	
五月連休中	六時から正午	
はなまつり 誕生会	燈籠流し	
春季五重塔見学会	八月二十三日	
五月連休中	十九時～	
はなまつり 誕生会	月並護摩祈禱会	
春季五重塔見学会	毎月二十八日	
五月連休中	九時～	



この度、不動明王さま、並びにお大師さまの御縁と導きを頂きました。当山の御本尊は馬頭観世音菩薩様ですが、昔には馬頭明王として拝されていた時期がありました。尊の教えは、慈悲深さにあります。この度、不動明王さま、並びにを受け継ぐ事になりました。

当山の御本尊は馬頭観世音菩薩様ですが、昔には馬頭明王として拝されていた時期がありました。どちらも、忿怒尊の仏です。忿怒尊の教えは、慈悲深さにあります。ただただ、怒っているわけではありません。内には、慈悲の心を具え、外は忿怒の形相にて私たちを慈悲の眼で、導いていただけるのです。まさしく、両親が我が子を叱るように、助けるが如くに、怒りを頭にしてまでも、私たちを御救い下さるのです。今では御本尊様に救済を、尊不動様に煩惱を取り除く祈願を致しております。

尊不動尊像が祀られる御堂は、平成八年に十王堂奥殿に新築されました護摩堂にお祀りしております。

この度、不動明王さま、並びに不動寺様より第二十九番霊場を受け継ぐ事になりました。当山の御本尊は馬頭観世音菩薩様ですが、昔には馬頭明王として拝されていました。尊の教えは、慈悲深さにあります。この度、不動明王さま、並びに受け継ぐ事になりました。

令和二年、師走には、護摩堂の隣に『四国三十六不動霊場お砂ふれ道場』を新建立し、開眼並びにお通り染め式も厳修する予定です。多くのお遍路さんに不動明王さまの御縁とお導きをいただき、益々の四国不動霊場の興隆の一途になります。参拝者の姿が見え、不動霊場が境内に響く光景に有難く感じております。

令和二年、師走には、護摩堂の隣に『四国三十六不動霊場お砂ふれ道場』を新建立し、開眼並びにお通り染め式も厳修する予定です。多くのお遍路さんに不動明王さまの御縁とお導きをいただき、益々の四国不動霊場の興隆の一途になります。参拝者の姿が見え、不動霊場が境内に響く光景に有難く感じております。

当山の童子は、宝蔵護童子さま。六波羅密修行の禅定行の道場でして、その教えは「とらわれぬようカンマンボロン」です。今まで、不動明王さまの御力を賜り、当山の御作である。馬頭観音は現世、薬師如来は前世、阿弥陀如来は来世を御救いくださる。脇侍の阿弥陀如来は「太刀受けの弥陀」の別名が伝わる。天正の兵火では、長宗我部軍が、本山寺に押し入った時、当時の住職は我が身を捧げて立ちはだかつた。

しかし、軍勢は、住職を切り捨て本堂へと歩を進めた。すると、本堂内が現れ、その右手から血が流れ落ちていた。この姿に恐れおののいた軍勢は、本山寺を焼かず去つていった。

本山寺は、約二万平方メートルの境

